

文化講座（特殊研究講座）講演（令和元年度）

令和元年 5月15日（水） 1年生，2年生対象

英語の何をどう学ぶのが良いか ―文学と文法は仲が良い―

筑波大学名誉教授 安井 泉

本講座では、文学を真に楽しむために、文法の知識がいかに大切であるかを、具体例を示しながら解説された。英語を読んでもわからないということは、「知らないこと」だからであり、時間をかけてゆっくり読むことに価値がある。大学の授業は、自ら考え、疑問を持ち、その疑問を自ら調べて解決する姿勢を身に付けることが目的である。そのために、学生は常に「疑う」ことが必要である。文学の解釈も同様で、時制、前置詞等の文法や抑揚等すべてを理解し、自ら解釈することで、英文のニュアンスまでも楽しむことができることを『不思議の国のアリス』等のテキストを読みながら示された。

令和元年 10月10日（木） 3年生，4年生対象

コミュニケーションを志向した英語学習と教育：Focus-on-Form Approach

上智大学外国語学部教授 和泉 伸一

この講演では、言語学習をするにあたって3つの重要な要素である「form（形式：文法・語彙など）」「meaning（意味）」「function（機能）」を挙げ、特に軽視されがちな meaning, function の重要性を、学生にも様々な場面で実際に英語を話す活動を経験させながら説明された。英語教育でも、Focus-on-Form アプローチを紹介し、この3つの要素をバランスよく取り入れることを提案された。質疑応答では、留学後に英語力を維持するためには、アウトプットの機会が少なくなることを補うために、大量のインプットを意識して取り入れていくことが一つの解決策になると助言された。

教員学術研究発表会（令和元年度発表要旨）

令和2年 2月26日（水）

○ 文学作品の映像への翻訳

特命教授 山本 史郎

翻訳といえば通常は言語から言語への転換を意味するが、ヤーコブソンも指摘しているように、表現媒体をまたいで転換させることも「翻訳」としてとらえることができる。この発表では、主にシャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』を素材として、19世紀前半に文字で書かれた物語が、20世紀後半の映画製作者によってどのように変形されているかを紹介することで、今後の翻訳論が進むことのできる方向性を示そうとした。

○ 円滑なコミュニケーションを構築するストラテジー

教授 金徳 多恵子

人間関係を円滑にする効果的なコミュニケーションストラテジーとして、褒めることと相手を respect する重要性を提唱した。褒めることは好意的な人間関係（「ラポール (rapport)」）を築く。効果的な褒め方とほめ言葉の原則を日英語の実例を挙げて提示した。また、Brown & Levinson のポライトネス理論を基に、相手の face を配慮した日英語の敬意表現とフレーミング効果による思考のポジティブ変換を紹介した。さらに、人間関係を円滑にする論理構成として配慮に基づく logical order を考察した。

英語コミュニケーション学科 FD 活動セミナー

令和2年 2月26日（水）

○ Building Oral Skills for Class Participation

Workshop leader: John S. Rajeski, Temple University Japan

An interactive session was held on some of the challenges students face and some in-class and outside class strategies and techniques to increase their confidence levels leading to increased course participation as well as taking greater responsibility for their studies.